

【有償配布 や Web(ホームページ, ブログ, facebook等)へのアップロード・転載はお止めください】

【リンクはご自由にお貼りください】

「結婚の自由をすべての人に」九州訴訟(福岡地裁)第11回期日(20221208)提出の書面です。

令和元年(ワ)第2827号、令和3年(ワ)第447号

「結婚の自由をすべての人に」訴訟事件

原告 こうすけ、まさひろ、こうぞう、ゆうた、ミコ、ココ

被告 国

## 原告意見陳述要旨

2022(令和4)年12月8日

福岡地方裁判所 第6民事部合議B係 御中

原告 ま さ ひ ろ

### 記

2022年9月5日は、私の人生の中で最も劇的な1日でした。

私の父親が、尋問のためにこの裁判所に来たからです。

私は、家族の中では母親にだけ、自分がゲイであることを話していました。父親は、今では私がゲイであることを知っていますが、私から直接ゲイであると話したことはありませんでした。

9月5日の期日では、母親へのカミングアウトが父親にどのように伝わり、父親がどう感じたのかを初めて、父親本人の口から聞くことができました。

父親は70歳を超えています。団塊の世代よりも、さらに上の世代を生きしてきました。自分でも言っていたように、昔ながらのかたぶつです。男は仕事、女は家庭という考えを持っている人でした。母親だけにカミングアウトしたのは、そうした父親の考えは到底変わらないと思っていたからです。

【有償配布 や Web(ホームページ, ブログ, facebook等)へのアップロード・転載はお止めください】

【リンクはご自由にお貼りください】

「結婚の自由をすべての人に」九州訴訟(福岡地裁)第11回期日(20221208)提出の書面です。

実際、父親は、母親から初めて説明を受けた時、「まだまだそのうちに女性を好きになるとおっしゃってました」と言いました。

私はゲイの当事者として、子どものころから「自分は異常なのではないか。」「女性を愛せないのは病気だからなのではないか。」という葛藤を抱えてきました。父親の証言を聞いて、父親も、母親も、またきょうだいも、それぞれ葛藤を抱えていたことを知りました。

証人尋問の当日に初めて知ったエピソードもあります。それは、生涯のパートナーとしてこうすけさんを紹介した時も、父親が「まだまだ受け入れられなかった」、「昔みたいにこれは絶対駄目だ、男と女が結婚するんだ」と思っていたということです。

私が意を決して本当のことを打ち明けても、父親が「いつかは治る」「今だけだろう」と思ったのは、生きてきた時代の違いによるところが大きかったと思います。近くに同性愛者がいたとしても、父親の世代では気軽にカミングアウトできなかつたはずで、父親には実態を知る機会がほとんどなかつたのだと思います。仮にそうした機会があつたところで、父親は、「生産性のない」、「少子化を進ませる」、「日本を滅ぼす」かのような子を産んでしまったと、自分を責めてしまったのではないかともしました。

それでも父親は、私に対して攻撃的になったり、性的指向を矯正させようとしたりすることはありませんでした。葛藤を抱えながらも、一人の子として当たり前前に接してくれていたと知り、大きな安心感を得ることができました。

【有償配布 や Web(ホームページ, ブログ, facebook等)へのアップロード・転載はお止めください】

【リンクはご自由にお貼りください】

「結婚の自由をすべての人に」九州訴訟(福岡地裁)第11回期日(20221208)提出の書面です。

この訴訟の原告として、思うことがあります。

なぜ、私のようにセクシュアルマイノリティと呼ばれる人たちが、家族に嘘をつき続けなければならないのか。なぜ家族が、本当のことを告白されたのに、葛藤を抱えなければならないのか。

それは、この国が、本当の意味で多様性を認めることができていないからだと思います。この裁判で繰り返し訴えてきたように、同性同士の結婚を法制化して、私たち当事者が好きな人と安心して生きていけるようになっても、傷つく人は一人もいないのです。好きな人と一緒になるという当たり前の権利を奪われている人がいなくなるだけです。

私の父親が示したように、人は変わることができます。同性カップルにも等しく結婚の自由を認めるべきだという考えは、この社会に確実に広がっています。それは若い世代だけでなく、父親の世代でも同様です。

セクシュアルマイノリティの権利を認めることは、本当の意味で多様性を認めることにつながると信じています。誰もが生きやすく、個々人が自分の能力を最大限発揮できる社会になると信じています。

国会での議論がまったく進まない中、私たちの権利を認め、社会を変えるきっかけを与えられるのが、裁判所だと思います。

どうか私たちや、これからを生きる子どもたちが、どんな性的指向だとしても、未来に希望の持てる人生を送れるように、力を貸してください。

以 上